「麦飯水による免疫機能解析」より

総IgE値の減少・NK活性を確認

免疫調整ウォーターの可能性を示唆

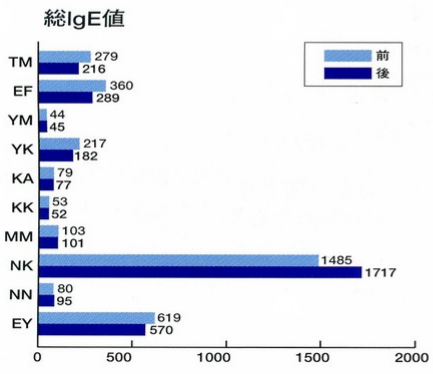
国立旭川医科大学医学部病理学部第２講座
国立旭川医科大学医学部微生物研究所

漢方薬石として知られる麦飯石（用語解説参照）の地層から湧出した麦飯水について、国立旭川医科大学医学部病理学部第２講座と国立旭川医科大学医学部微生物学研究所が研究した「麦飯水による免疫機能解析」によると、アレルギーの症状発現に重要な血清中の総IgE量の減少ならびに血液中の白血球におけるNK（ナチュラルキラー）活性が確認されたとしている。これにより、麦飯水には「免疫調整ウオーター」としての可能性があることを示唆している。

実験は、麦飯水などのミネラルを含む水は小腸や大腸などの消化管にやさしく、その粘膜内に多数存在する粘膜関連リンパ球の維持・活性化に大きな影響を与えるとの推論からスタート。10名の健常者をコントロール群として、７日間にわたり麦飯水を１日500ml投与する実験方法を採用した。

結果、飲用後の総IgE量について、10名中７名に低下が確認された（表・グラフ参照）。特にアレルギー疾患を有していた３名すべてについて減少傾向が認められた。これにより、麦飯水がアレルギー症状の緩和に働く可能性があることが示されたとしている。

麦飯石のアレルギー症状に対する作用については、水中に含まれる亜鉛に着目。抗力酸化物質としての亜鉛がアレルギー炎症の原因物質の放出を抑制、IgE値の減少をはかることで症状緩和につながるのではと推測している。



NK活性（1）

NK1:10	前	後	差
TM	2.9	7.4	4.5
EF	10.1	16.3	6.2
YM	20.4	9.0	-11.4
YK	9.2	14.5	5.3
KA	28.3	43.6	115.3
KK	34.1	34.9	0.8
MM	14.1	14.9	0.8
NK	7.8	13.7	5.9
NN	22.9	13.0	-9.9
EY	17.8	17.4	-0.4

NK活性（2）

NK1:10	前	後	差
TM	7.1	12.8	5.7
EF	20.6	27.2	6.6
YM	35.8	17.0	-18.8
YK	14.8	23.5	8.6
KA	53.4	62.5	9.1
KK	55.2	52.1	-3.1
MM	24.6	28.2	3.6
NK	15.8	25.6	9.8
NN	35.7	23.7	-12.0
EY	28.4	31.6	3.2

一方のNK活性については、１：10、１：20のどちらの比においても10名中７名において飲料後の免疫機能の上昇効果を確認。NK活性によって抗腫瘍作用などが期待できることから、ガンの発生抑制、ウイルスに対する感染防御能力の向上などの期待を示唆している。

免疫系へ働きかける要因として推察しているのが、麦飯石中に含まれるバナジウムに対して。バナジウムには免疫系の機能調整を担っているとの説もあることから、NK活性という結果につながったのではとの見解だ。また、バナジウムにはいわゆる環境ホルモンなどを排出するキレート作用があり、さらにコレステロールの沈着防止、血糖値の正常化などの働きも期待されている。

麦飯水は天然バナジウムを含有している稀少な水であることから、他の微量元素との相乗効果を含めた今後の研究が待ち望まれる。

【用語解説 —— 麦飯岩とは】

麦飯石は循環温浴器や浄水器の濾材などに用いられ、日本の健康産業界では知られた存在。しかし中国での歴史はずっと古く、漢方薬石として多くの天然薬専門書に石薬として記載されている。正式名称は火成岩の「花崗斑岩（かこうはんがん）」と呼ばれ、その形状は麦の飯のおにぎりに似ていることから名づけられたという。漢方では皮膚病や解毒などの薬効がある石として用いられ、飲み薬や塗り薬として使われてきた歴史がある。